

自	分	色	
は	っ	け	ん

vol.5

区内で活躍する男女共同参画人



(有)岸本工業 取締役

す どう ゆう こ
須藤 祐子さん

profile

大学卒業後、就職し結婚、退職、出産。その後、家業の岸本工業の営業事務として入社。夫・子ども2人の4人家族。営業事務から加工まで社内業務を一通り経験し、2009年から取締役に。2012年「下町ポブスレー」のプロジェクトに参加。

海外からも求められるモノづくりを

家業の工場に再就職

16年前、上の子の出産を終えて、また仕事を始めようと考えていたところ、母から「事務員が辞めるので手伝わないか」と誘われました。職を探していたときでもあったので、家業でもあるこの会社に入社することを決め、当時住んでいた埼玉県から一家で会社の近くに引っ越し、営業事務として働き始めました。

わが社は社長である父が40年前に創めた工場です。プラスチックの精密加工を得意としています。私が入社した頃は、優れた技術がありながらも注文がくるのをただ待っているだけの「待ち工場」でした。これではいけない!と思った私は、自分たちの技術をもっと外部に知ってもらいたいと思ひ、大田区産業振興協会の助言もあってプラスチック加工の展示会に出ることにしました。

「出たっ」と決意したものの、営業経験はまったくなく不安でしたが、わが社の技術が高く評価して下さるお客様と繋がり、お付き合いは今も続いています。

家族に支えられて…

展示会に出始めた頃、下の子が生まれました。その頃の私は営業と併せて現場の加工も覚えようと忙し

く、育児も2か月弱で復帰したほどでした。上の子もまだ小さかったので、仕事と家事を両立させるのはとても大変でした。

それでも恵まれていたと思うのは、会社が自分の実家だったことです。両親・妹弟が子どもたちの保育園のお迎えや夕食などのサポートをしてくれました。本当に助かりました。

夫も私と同様、仕事からの帰宅が遅いのですが、休日には、コーチとして子どもたちが所属するソフトボールチームの指導に携わってくれました。

忙しくても子どもへの気持ちに寄り添うことを心がけ、家族に支えられながら働いています。

「待ち工場」から「世界」へ 女性リーダーとしての 今後の展望

10年ほど前から取締役に就いていますが、加工や製図、プログラミングなど社内業務を一通り経験したことが、その後のお客様との折衝や段取りを考える上でとても役に立っています。自分自身、会社の旗振り役とは思っていませんが、経営に関わっている立場上、社員の雇用を何としても守らなければ、という思いはとても強いですね。

取引先では(後継者として)「男だっ

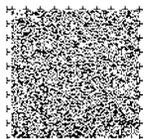
たらね」と言われて、女性が後継者ではダメなのかと強く意識させられた時期もありました。今は性別に関係なく、それぞれの得意な面を上手く活かし、能力を発揮できるように職場でバックアップしていくのが自分の役目と思っています。このところ製造業でも少しずつ女性の後継者や技術者が増え、受け入れる側の意識も変わってきているのだと実感します。

今後は3年計画で海外販路を開拓する準備を進めています。

今年はその第一歩として、以前「下町ポブスレー」を紹介するために訪れたドイツの展示会に出ることにしました。自分たちの製品を海外の人たちに評価してもらうのは初めてです。大丈夫かな…と不安を感じながら、英語や海外のビジネス文化も勉強したりと、第一歩を踏み出す準備を進めています。



▲社長の岸本さん(父)と打ち合わせをする須藤さん



※「下町ポブスレー」…大田区の町工場が中心となり、世界トップレベルのソリを作り、自分たちのモノづくりの力を世界に発信しようというプロジェクト